



「Grosvenor House」は1929年創業の歴史を誇る名門ホテルで、その名称はグロブナー家を継承するウェストミンスター公爵に由来し、その邸宅跡に建てたホテルであることから名付けられた。



パークレーン側はローマ帝国の建築物を彷彿とさせる円柱が立ち並ぶ古典的なエントランスの外観が象徴的である。右手にミーティングルーム「The Great Room」の文字が見える



ホテルは現在、マリオットの傘下に入り、「Grosvenor House, A JW Marriott Hotel」の名称となって見事に復活を果たした



メイフェア側エントランスはエレガントな邸宅風の門構えであり、凛とした制服のベルキャプテン、ドアマンが待機する



筆者 **小原 康裕**  
ホテルジャーナリスト  
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re 入社。85年築地原健樹代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。  
[www.jhrca.com/worldhotel](http://www.jhrca.com/worldhotel)  
現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。私のファーストアルバム「World's Leading Hotels」はお陰様で好評を頂いておりますが、写真集第2弾「World's Prestige Hotels 世界の名門ホテル」を去年6月に発刊いたしました。独自に取材した世界各地の最高峰ホテルを華麗な写真と共に解説しております。ファーストアルバムに引き続きご愛読して頂ければ幸いです。



メイフェア側エントランスの気品あるロビーホール



ホテルの中心に位置する「The Park Room」はアフタヌーンティーも人気だ



メインバー「The Bourbon Bar」正統派の重厚な空気が流れる



「Executive Lounge」のレセプションデスク



「Executive Lounge」の機能的なレイアウト。早朝6時から深夜0時まで利用できる

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエグゼクティブが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままに撮ってきた写真を掲載する。

### Grosvenor House London

昭和9年10月16日、ハイドパーク近くにある巨大ホテルに日章旗が翻っていた。そこに到着したのが日本の海軍少将、山本五十六の一行である。彼らは日米英3国による海軍軍縮交渉の代表として、はるばる海を越えてロンドンにやって来た。その会場となったホテルこそが「Grosvenor House」である。グロブナーハウスはロンドンのメイフェア地区にあり、パークレーンに面した最





レストランは充実しており、オールデイダイニング「JW Steak house」はロンドンのパブとパリのビストロを併せたような雰囲気が楽しい



約70㎡の広さを持つ「Park View Suite」のベッドルーム。室内はアーバンコンテンポラリーの意匠で、ハイドパークを見渡せる気品あるスイートだ



「JW Steak house」内にある落ち着いた個室



「JW Steak house」のブレックファストは評価が高く、多くのパンをはじめ多彩な朝食メニューが並ぶ



品格を感じさせる「Park View Suite」の余裕ある玄関ホワイエ



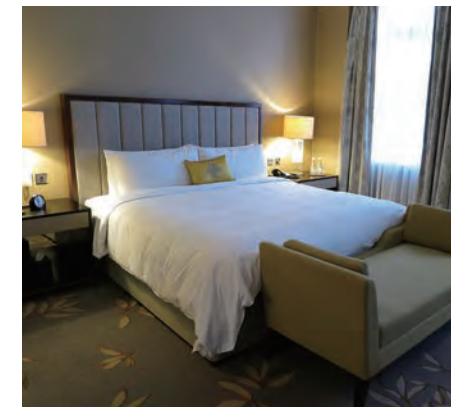
ゆったりとした大型のソファを配置したリビングルーム



ファインダイニング「Corrigan's Mayfair」のエントランス。ここやかな受付スタッフがゲストを迎える



「Corrigan's Mayfair」はホテルから別棟に位置するが、店内はリチャード・コリガン賞を受賞したゴージャスな雰囲気だ



エレガントなベッドルーム



スタイリッシュでコンテンポラリー感覚の広いバスルーム

高の立地と1929年創業の歴史を誇る名門ホテルである。「グロブナーハウス」という名称は、グロブナー家を継承するウェストミンスター公爵に由来し、その邸宅跡に建てたホテルであることから名付けられた。

グロブナーハウスは英国王室や多くの著名人たちに利用されていたが、建物の老朽化は進み、長い間セピア色の古いイメージは覆されなかった。ホテルは長期にわたり全面改修され、2008年にかつての輝きを取り戻しリニューアルオープンしている。ホテルは現在、マリオットの傘下に入り、「Grosvenor House, A JW Marriott Hotel」の名称となって見事に復活を果たした。メイフェア側はエレガントな邸宅風の門構えであり、凛とした制服のベルキャプテン、ドアマンが待機する。パークレーン側はローマ帝国の建築物を彷彿とさせる円柱が立ち並ぶ古典的なエントランスの外観が象徴的である。

グロブナーハウスは8フロアに76のスイートと420の客室、そして31のミーティングルームを持つ大型ホテルである。今回は約70㎡の広さを持つ「Park View Suite」を紹介したい。室内はアーバンコンテンポラリーの意匠で、ハイドパークを見渡せるスイートだ。レストランは充実しており、ホテルの中心に位置する「The Park Room」はアフタヌーンティーも人気だ。オールデイダイニング「JW Steak house」はブレックファストも評価が高い。別棟になるが、リチャード・コリガン賞を受賞したファインダイニング「Corrigan's Mayfair」は気品ある雰囲気だ。メインバー「The Bourbon Bar」正統派の重厚な空気が流れる。また、ミーティングルーム「The Great Room」は、最大2000名の収容人員を誇るロンドンでも屈指の大型コンベンションホールである。

グロブナーハウスは、最も英国らしいロンドンの中心地、メイフェア地区に立地する。ウェストミンスター公爵は、このメイフェアを中心に莫大な土地を所有しており、全ての英国貴族の中でも最も富裕な貴族と言われる。現在はヒュー・グロブナー氏が第7代ウェストミンスター公爵を継承している。そんな悠久の英国貴族の系譜を思い浮かべながら、このホテルに滞在するのにも一興であろう。